

都市構造可視化を 活用した分析

神奈川県 横浜市 都市計画課

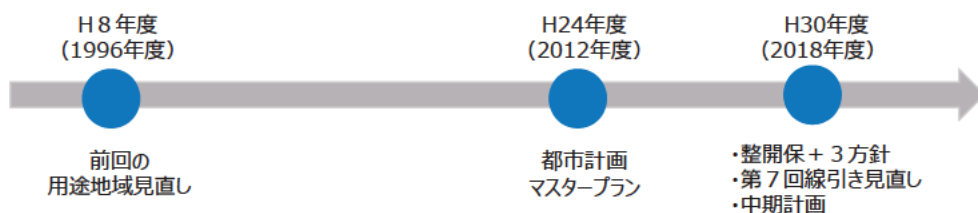
i-都市交流会議2020

1

1. 背景等

背景・分析テーマの設定等

平成8年の用途地域、全市見直し以来20年以上が経過し、都市環境や都市構造などは大きく変化。各課題に応じた適切な誘導策を講じる必要がある。



- ①未整備都市計画道路
- ②高度地区等
- ③老朽化建築物の密度

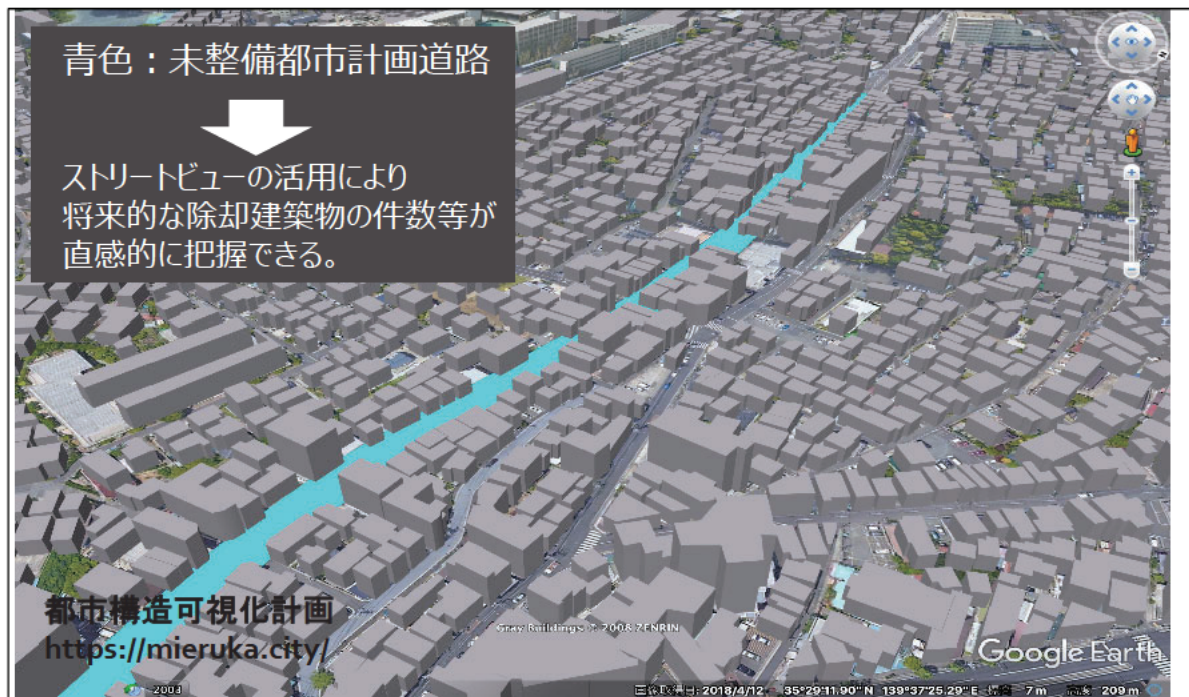
について可視化

i-都市交流会議2020

2

2. 独自データを活用した分析事例①

都市計画道路の可視化

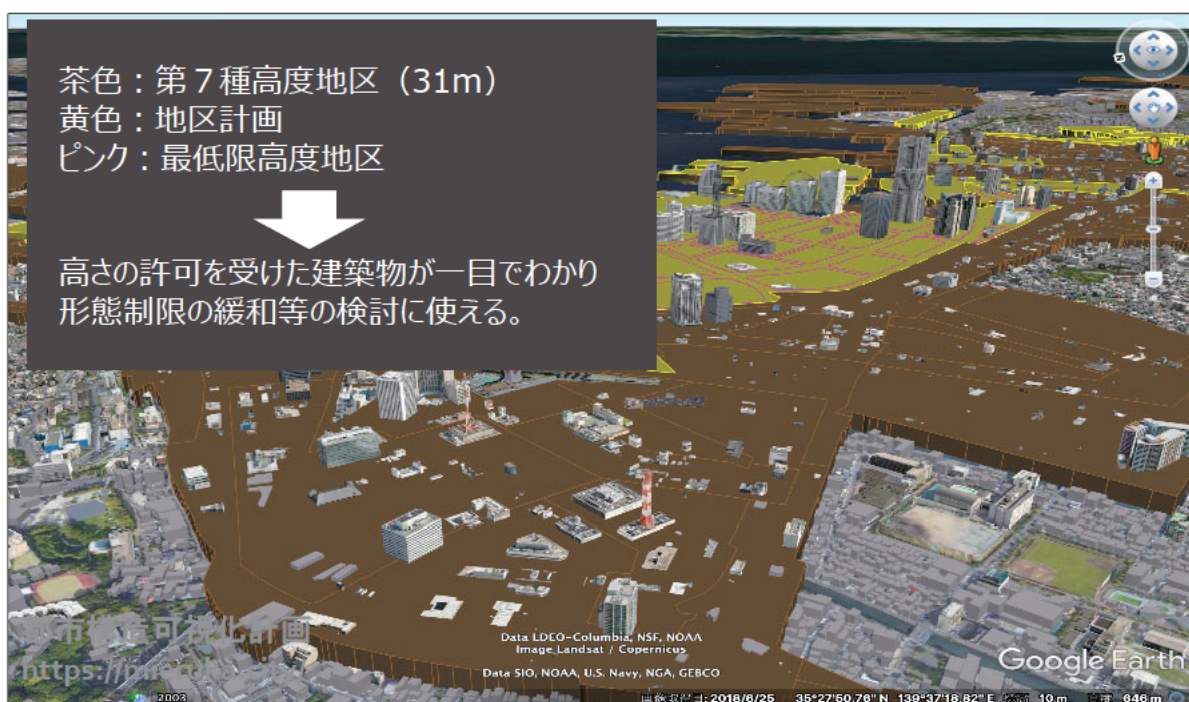


i-都市交流会議2020

3

3. 独自データを活用した分析事例②

高度地区等の可視化による分析

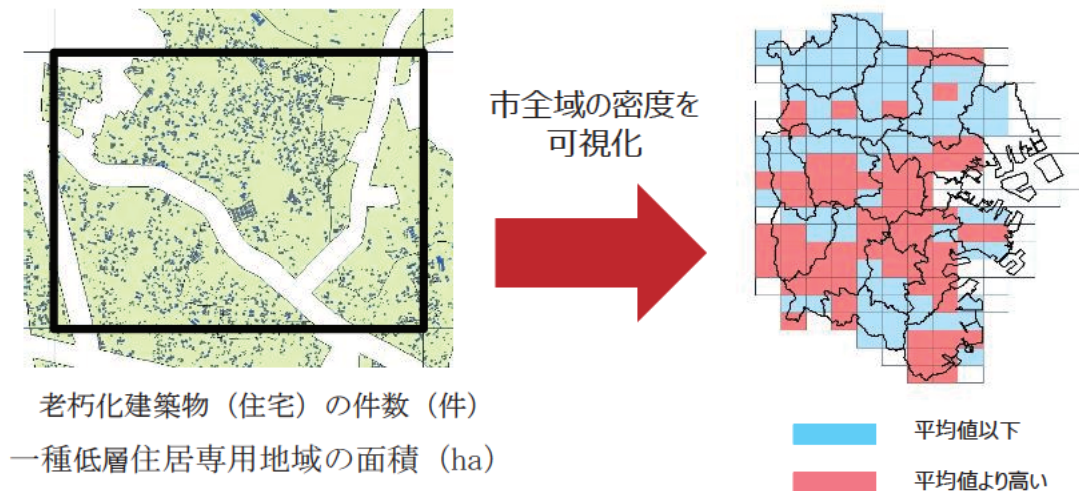


i-都市交流会議2020

4

4. 独自データを活用した分析事例③

老朽化建築物の密度－GISにおける情報表示



GIS(2D)では

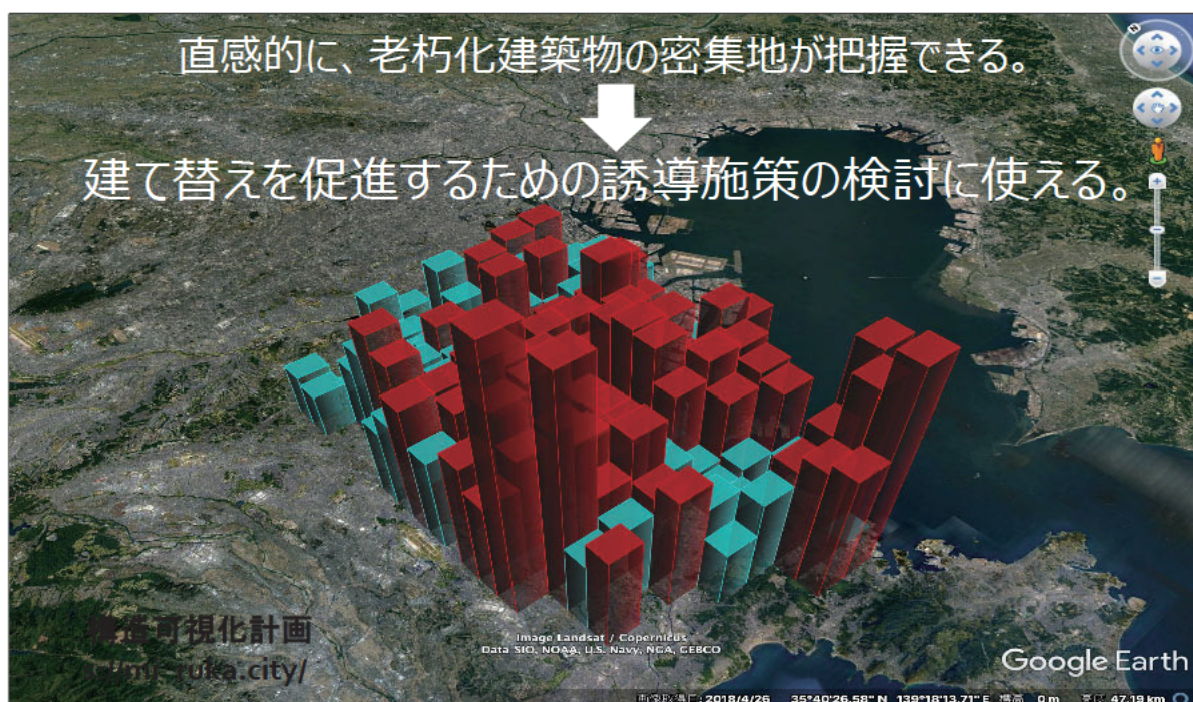
- ・平均値との差がわかりづらい
- ・具体的にどの地域の密度が高い（低い）のか分かりづらい

i-都市交流会議2020

5

5. 独自データを活用した分析事例③

老朽化建築物の密度－可視化ツールによる情報表示



i-都市交流会議2020

6

6.まとめ

感想・課題

感想

- ・ GIS等では把握しづらい都市的課題を可視化することができる。
(インフラの老朽化率と人口分布を組み合わせたクロス分析によって優先的に整備する必要があるインフラを抽出できるのでは?)
- ・ ストリートビューの活用により現地の状況をすぐに把握することができる。
- ・ 経年変化のアニメーションによる可視化を活用することにより、未来を見据えたまちづくりをすることが可能。

課題

都市構造可視化ツールの存在を知っている人がまだ少ない。
→広く周知し、各情報を組み合わせることにより新しい街づくりの視点を模索したい。

横浜市

